

之を要するに本地域は全體として甚だ人口稠密のところであつて平均密度は背面なる紀ノ川斜面の約七倍に及んでゐるが、之を仔細にみるときは、海岸の密度過大なるところより順次地形が高まるにつれて規則的に密度が半減し、且つ高度を増すに従つて生業の種類も變化して行くのが如實に示さるゝ興味ある地域と思ふのである。

以上は高度と人口密度との關係を一地域に就て觀察した一つの試みに過ぎないものであるが、なほ之と密接な連關にあるところの該地域に於ける高度と聚落との關係は他日に之を發表したい考へである。

讀者は本稿につき五萬分一地形圖和歌山十號岸和田圖幅を參照されたい。(昭和六年一月稿、八年四月訂正)

備後の名勝山野峽 (猿鳴峽及古谷川の峽谷) (一)

吉 野 益 見

目次、一、地形及地質 二、猿鳴峽 三、古谷川の峽

谷 四、鑛泉 五、參考圖書

一、地形及地質

地形 山野峽即ち猿鳴峽及古谷川の峽谷は東

部備後深安郡山野村に在り。福山より行程二十
軒、自動車の便あり。山野村は地形一般に起伏
少なき高臺をなすも五百米を越ゆる所は僅に其
中央に屹立する殘丘狀の馬乘山等數所に過ぎず

山 野 村 地 圖

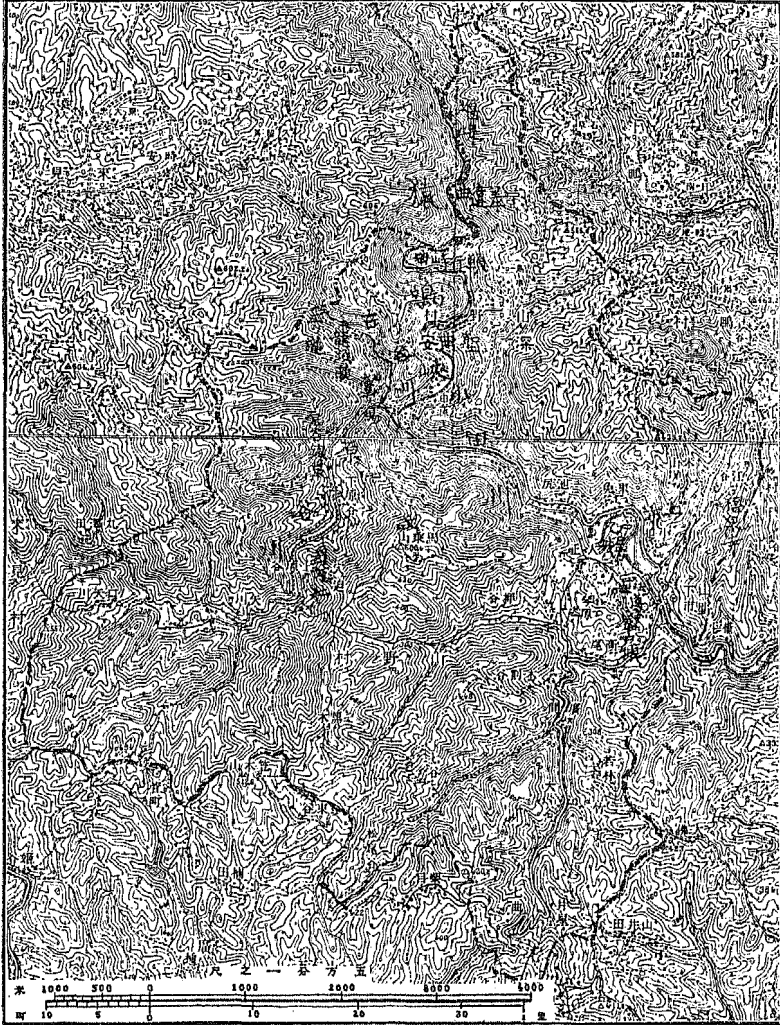
地 球

第 二 十 卷

第 一 號

三

四

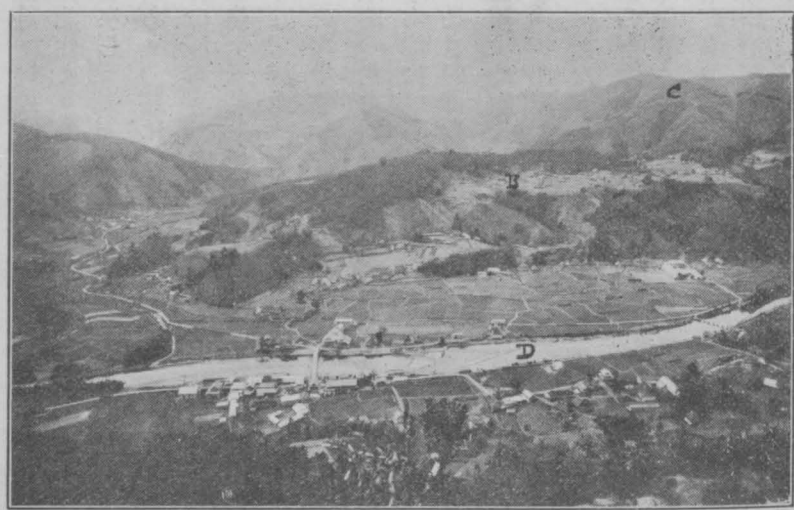


川は小田川及其支流之を開折して流れ、小田川は北方より南流―神石郡來見村との境上を過ぎて田原に至る。此間蛇曲を畫くこと四回、差違、頓行峙、聖及田原の曲これなり。次に此支流なる原谷川は本村の南西に發源して北東に流れ下流に於て亦蛇曲を畫き、來見村より本村の北西に流れ來る古谷川を合せ遂に小田川に朝す。これより小田川は流向を南東に轉じ東免に至り亦蛇曲を畫き、山野の河成盆地を流れ出で備中に入る。小田川の聖の曲以北は猿鳴峽と稱し、古谷川と共に峽谷をなして、兩岸削立深林之を彩飾し、又河床は淵瀬及瀑布をなし、所謂峽谷美存在の地域なり。又原谷川の下流には原谷鑛泉湧出するありて浴客四時絶えず。

地質 山野村最北の狹窄地の北半には上部古生層の砂岩、其南半には石英斑岩の露出を見る。次に其南の方形廣延地の北部には上部古生層の千枚岩質粘板岩の大露出あり、頓行峙曲の周圍に石灰岩表はれ、又此曲の東島串方面には中生

第一圖 山野盆地

- A 辰戶城址 B 大原臺地 C 馬乘山 D 小田川



東方より西二十度北に向ひ寫す

備後の名勝山野峽



層の砂岩粘板岩の現はるゝあり。猿鳴峽は以上の諸地質の中に發達し、古谷川の峽谷は唯千枚岩質粘板岩の中に穿たる。中部には馬乗山の如き石英斑岩の噴出あり。南部には亦古生層の千枚岩質粘板岩の大露出ありて、矢川には石灰岩中に珊瑚長門フィルムサトイ(Nagatophyllum Satoi)存し、下部石炭紀の存在を立證す。此他尙古生層の輝綠凝灰岩粘板岩等の露出あり。要之本村は古生層の千枚岩質粘板岩最も廣く、之を貫く石英斑岩之に次ぎ、兩岩の接觸部に鑛床を胚胎す。又水成岩の節理は峽谷の一成因をなす。

二、猿 鳴 峽

概説 猿鳴峽は小田川の上流山野村を流るゝ部分の上半峽谷を指稱し、猿鳴に因つてかく名づく、田原の聖橋(橋下百七十米)に起り、神石郡來見仙養兩村境(二百八十米)に終る、其高さは百十米に過ぎざるも、其長さは四千九百米(

一里餘)に達す。就中北の小部九百米間は直線狀に北西より南東に流れ、南の大部は三つの蛇曲をなし、夫々北より差違、頓行峙、及聖の曲の名あり、茲に山水の絶勝を贊む。此曲は川が狭穿分脈(Narrowed spur)の周を曲流するに因りて生ず。即ち岩石節理の方向が多樣且相交るあらば、流水は之を浸蝕して生成せしむ。

A、聖の曲

此曲の左右兩岸には、千枚岩質粘板岩發達し就中右岸には石灰岩の露出をも認む、分脈は東西の長さ四百米、幅其半に達す。

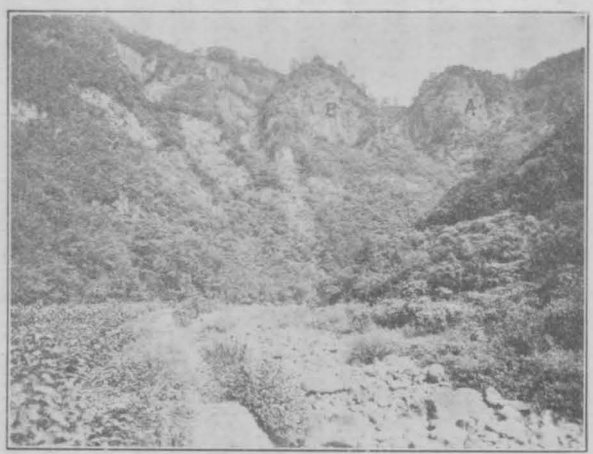
聖橋 此峽入門の第一橋、長さ三十四米、幅四米餘、河床よりの高九米、長虹の高く溪流に懸るに似たり。

聖の懸崖 兩岸は斷崖絶壁所謂眞の峽谷をなし、右岸には休場やすみの鼻、馬場尻、小丸、聖嶽等數峯高く並峙す、直立二百餘米あり、それ等崖頭には松其他綠樹を冠し、其麓亦鬱蒼たる樹木を袴とし、其間に峭壁巉崖削立し、所々綠樹の

點綴を見る、此豪壯美裝の雄姿は峡中稀なる秀景にて、探勝者其入門に於て嘆稱措く能はざるものなり。圓峯聖嶽は頂に大岩窟鍾乳石大山神

第二圖

A 聖嶽 B 小丸



南方より北二十五度西に向け寫す

社等存し、諸峯中の白眉たり。此聖懸崖下の曲流には、粘板岩の露出及流轉巨岩ありて、澗及

備後の名勝山野峽

澗をなす。

聖の澗 澗は上下に二つあり、紺碧精淨の中に奇岩横り景趣を添ふ。

聖の澗 前者の間に挟まれ數段をなす、清水滔々流れて岩に激し岩を噛む。

此澗澗と懸崖諸峯とを併せ鑑賞し其秀景を味ひ得。若し夫れ秋天高きの候に至らば、滿峯の織錦深紅燃ゆるが如く、清流亦爲に赤く、全景觀悉く一變す。

背後の高臺は草離々たる荒地なるも、田原城址及練武の馬場等ありて、頗る形勝の位置を占むるも、史實の明かならざるを憾む。

聖の名は、傳説によれば、昔西免に富豪あり金を戸尾け丸城に埋む、聖(修行者)之を知りしため、聖嶽に伴ひ之を懸崖より墜落死に至らしめしより起れりと。

赤嶽 聖嶽に接し聳立す(藤掛山の國有林に屬す)、石灰岩より成るも、樹木滿山を蔽ひ唯綠色の濃かなるを見るのみ、秋の紅葉は殊に名あ

り。

聖曲の一角天狗橋の北東方に、長蛇の如き溪流を望む、其下位に砂原淵あり、一方に砂原の生ぜるにより名づく、次に長き瀬の鯨淵あり。

鯨淵 鯨淵に續く、鯨多し故に名づく。左岸に大なる磐岩あり、溪流奔騰之に激し轟々旋渦す、又青樹は左岸に茂り磐岩と深淵とを蔽ひ、凄愴を加ふ、淵長二十七米、幅十八米、深六米。

フサギ瀬 前者に續く、右岸は磐岩の粘板岩にて激流に洗はれ、左岸は石英斑岩の露出と共に、巨岩多く横はる。緑樹は森々參差枝を交へ涼風自ら至る。

フサギ淵 前者に接す、粘板岩の大淵、左岸には巨大の岩塊聳え、清水は白糸の如く之を落下し來つて此淵に注ぐ。

谷田瀬 前者に續く、河床の傾斜急、從つて流亦急なり、蠻岩の大塊に激越し滔々白沫を四散す。

谷田磧 此磧は川の屈曲所にあり、上流の河

水はこゝに至り右岸と左岸とに分流して此磧地を圍繞す、其左岸流は一支流を出し後又合流して一となり、更に又一支流を出し初の右岸流に合せしむ、此最後の左右兩岸流は瀧狀となり矢の如く谷田淵に跳り入る。此等分流派生のため三個の三角洲を作る、第一は左の磧、第二は右の磧、第三は二者の下位に在るものにて、何れも夥多の大礫及巨岩を含む、第三には大磐岩の長さ十八米幅其半に達するものあり、第二には月見草等の礫間に其美を誇るものあり、第一には青松、白礫の間に林立して一段の景趣を加ふあり。此磧は岩石反對節理の交叉點が河水の浸蝕を受けて生成せしものにて、峽谷に於ける此種の三角洲は稀に見る所、帝釋峽にも之を存せず。又此附近密林の山地には猿多く、二三十群をなして此磧又はフサギ瀬を渡りて、左岸の島串に至り民家に近づき、或は柿・稻等を盜取すと云ふ。

概括 此聖の曲は河床景を主とし、數個の淵

潮相連続し静動交々至り、且之に配するに緑樹の美を以てす。就中入峽門聖の懸崖は此地域の絶勝をなし、終の谷田積は興味ある三角洲をなす。

B、頓行峙の曲

此は峡中最大の曲にて蛇曲狹穿分脈共に大なり、分脈の長約八百米幅狭き所百五十米あり、分脈の地質は大部中生代の砂岩及粘板岩にて、東部に僅に石英斑岩の露出あり、西部に僅に古生代の粘板岩及石灰岩あり。蛇曲右岸の地質は分脈西部のものに同じ。

ヤワセ淵 谷田積を溯る少許の上流にあり。左岸に砂岩の大露出あり南北の走向を取る、其上に大松蟠蝟して之を覆ひ最適の納涼地たり、淵は水清く且深く游泳に便なり。

カク淵 前者を去る少許に在り。右岸の磐岩は永年水浸のため深く彎入す、之には多くの岩松生育し美觀を呈す。

ヤナ淵 前者より少許に在り。淵末築を設け

獲魚す故に名あり。青藍拭ふに似たり、右岸には巨岩の流れ多く、又左岸の絶巔には覘嶽として削立せる纒岩の將に墜落せんとする如きあり、其頂上には松等緑樹濃かなるもの仰視さる。

頓行峙 分脈の西端に峙立する尖峰。河床を抜く百米、東面は覘嶽に連接するも、他の三方面は峽谷に臨み斷崖絶壁をなし攀登するを得ず、石灰の岩壁は白色を呈し眞柏青松及岩松忍草等はその裂罅を點綴して美裝を飾る、其容其姿、遙に帝釋峽堰堤の狗賓嶽、三段峽の佛岩に髣髴たり。蓋峽中の巨擘偉觀たり。山頂は石佛三體を祭り、白衣の業者來り賽するもの多し。

頓行峙の瀬 ヤナ瀬より頓行峙の南西に至る河床にて石灰岩の露出あり、川は東西の方向に流るゝも岩石の節理は南北の方向を有するため瀬は高低數段をなし、急湍奔逸滔々谷を壓す。

くどり岩 前者に接す、左岸の石灰岩脚は水浸のため深く剝り去られて彎入をなし、流水茲に潛り入る故に名づく、帝釋峽には烏樋等相當

第三圖 頓行峙及くゞり岩

南方より北四十度西に向け寫す



に存するも、此峽には稀なる勝景なり。然るに嘗て對岸の山崩のため此所を堰き止め可惜其一部を破壊し去りしも、尙紺碧の淵に其大部存し頗る奇態を呈す。更に其直上の岩壁面には石灰岩の四枚屏風高く廣く並列し、これに山水を畫けるの奇觀を呈し頗る人目を惹く。更に又此岩

壁の對岸には巨岩の下數十人を容るゝに足る廣場あり、以て雨露を凌ぐべく暑を避くべく、座して以て潛岩の秀景を望むべし。

下鳥越 頓行峙の西方に屹立する峻峰にて之に相對す。岩壁磊々高く懸り是亦矗立す、頂上は殊に削立の巨岩數個並存し愈々其勇姿を表し眞柏は其罅隙に簇入して之を青裝す。

ヤマ (Yama) くゞり岩より河床を上れば左岸に巨岩の積あり、一變化を與ふ。こゝより北西に向ひ直立百餘米を攀登し、ヤマを實査す。

こは井戸狀の深き穴にて石灰岩地に生ずるものなり、其口は四角形をなし、一邊五十一糎他邊五十七糎、其深十九米七に達す、帝釋峽花面ヤマに類す。併し口邊の岩石は粘板岩なれば恐く上方に在る粘板岩が山崩により茲に墜落し來り口邊を覆ひしものならん。積より茲に至る山腹には、くまがえさうの群各所にあり、こは蘭科に屬し、莖の上部に稍々圓形の二つの大葉を生ず。

荒波 積上方の河床は巨岩の横るもの夥多なり、こは古く山崩により流轉せるものにて、大さよりせば一面九米他面六米に達するものあり。其形態よりせば渴牛の谷に飲む如きもの、疊状をなせるもの、橢圓状角状を呈せるもの等千態萬狀なり。岩上には榊其他の樹木生長して更に美觀を加ふるあり。右岸に近く蛇淵あり、大ならざるも前記のヤマこゝに終るとて名あり。左岸は約六十米の間、流水奔飛する所、或は巨岩に衝突して白沫を散し流向を轉じ、更に亦岩に激し岩を超え、忽ちにして流れ二分し、又合一して小瀑を作り淵をなし、淙々轟々山谷を撼動せしめて天然の大音樂を奏す、荒波の名稱こゝに起る。巨岩に箕踞して北方の數嶽（來見村、石灰岩粘板岩より成る）を仰視す。

鷹巢嶽 河床より直立三百米、急峻の險崖、頂上に針葉樹茂り、之に次ぎ廣大なる斷崖白壁懸る、恰も大幕を張りたるが如く、帝釋峽幕岩に似たり。其下部は潤葉樹林の滴れるものある

第四圖

鷹の巢附近 左の高峰は鷹の巢



南方より北七十五度西に向ひ寫す

を認む、全姿雄大なる勝景は三段峽の鷹巢に髣髴たり。

上鳥越嶽 鷹巢嶽と頓行峙との中間に峙つ尖峰にて後者に對する面は奇岩峭立し、其他は樹林に覆はる、其山容よく頓行峙に似たり。

五峰 鷹巢嶽に隣りコーラ樋(側谷)あり。之に次いで五つの峯側谷を隔て、相並立す、尖峰圓峰存し皆頂に近く岩壁を露出し、頂上其他は密林に覆はる、高く雲際に屹立し、崇高偉大、仰ぐ者をして凄神寒骨せしむ、此五峰は峽中稀有の絶勝なり。

地獄尻 荒波より急湍を溯る少許に在り、淵周殊に奇岩夥し。

ヨワズ淵 前者より奔瀬を上る少許に在り。長さ三十六米幅十一米の長形にて、深二米半。

ホイト淵 ホイトは乞食の方言。前者を溯る少許に在り、左崖に磐岩峙立し樹木更に其上に稜疊たり、深四米半。

大平嶽 前者を隔つ百米許の右岸に聳立す、是亦岩壁と縁樹との美を有す。

萬鋏淵 川の曲所に在り、淵の上方は河流四派に分れ、左岸流右岸流及兩中央流あり、此淵に流入するものは左岸流及一中中央流なり、淵の左崖は磐岩高く峙立し、松樹相並びて之を飾る、中

央流は其崖角を突撃し石水相闘ひ頗る壯觀を極む、此淵は嘗て深かりしも今は四米に過ぎず。尙こは傳説に關して名あり、昔茲に河公住む、偶々農夫萬鋏を流し入る、其子の育せざるを憂へ、溯河農夫に對し繩を投じ之を引上げんことを願ふ、農夫其言に従ふ、河公繩を萬鋏に結び、農夫之を引上ぐ、河公之を徳とし鮎を送りて謝し、農夫は尙此萬鋏を傳ふと。

概括 此頓行峙の曲は最大の曲なれば淵瀬多く、就中荒波、くゞり岩、萬鋏淵等は河床景の白眉たり、又秀峰の靈なるもの悉くこゝに會し、頓行峙は自體其優なるものなるが、更に其絶巔は南西より北方に聳ゆる上下鳥越鷹巢の三嶽及五峯等の風手雄姿を一時に眺め得て、實に觀望の大自然をなす。此峽淵瀬及秀峯の眞髓はこゝに攢まるといふも過言にあらず。

C、差違の曲

此曲はく字形にて、東西の長さ二百五十米、南北四百米、前二者の如く完全なる分脈をなさ

るも、準分脈と見做す。狹義には二瀬川淵の上流少許より、大ノメヲ迄を呼稱するも、こゝには廣義に解す。

半六嶽 左岸遙に秀づる二百七十米の峰、巉岩峨々たる勇姿と密生の深林美とを仰視す。

下北向淵 右岸の粘板岩上には、梅及松崖樹として稜疊し、深淵に映し一段の景趣を加ふ。

左岸の峻峯は岩骨稜々岩松之を飾り、一段の光彩を添ふ、蒼々靜寂の深淵長さ二十七米、幅十二米に達す。

惡渡、惡渡瀨 前者を測る少許に在り。渡場としての條件不充分なるより名づく。

磧 前者に接する橢圓形の川中島、川は二瀬川と稱して二分流し、各々磧周を繞る、左は本流、右は分流なり。磧の上半は流轉の大岩及礫にて充され、下半は岩上樹木の鬱蒼たるもの多く、茲に箕踞して以て松籟流響に耳心を洗ふべし。

二瀬川淵 磧に續く、左岸に欹つ岩壁は更に

淵底に突入して奇態を呈し、之に接する白砂の洲は此黒淵に對し更に一美觀を添ふ。鯉の游泳を見る。

上北向淵 前者を隔つ少許に在り。千枚岩質粘板岩中に生ぜし大淵にて、其磐岩の節理は北三十度東を示す、淵首には清水一條となり雖然瀑狀をなして奔騰渦卷頗る壯觀を呈す。淵首に近く河中に横はる巨岩に、長さ五米、幅五米半高さ約三米のものあり、俗に段々石と呼ぶ、厚三厘の板を多く累積せる形態を有す。これ石英斑岩の流轉せる大塊にて一奇觀を呈す。尙淵首の右岸には塔狀岩屹立す、こは直立削立し縦に裂隙あり、此裂隙の上下は青樹之を粧綴し、更に此岩の頂上に近く松梅生茂し頗る景趣を加ふ淵長四十五米、幅九米、色紺碧の如し。

烏帽子瀨 前者を隔つ少許、兩岸は石英斑岩より成る、河中には此等の大塊散在す、左岸には礫岩の大塊轉落せるものあり、此等巨岩の間を流るゝ水は、或は急湍奔瀨を作り、岩を撃ち

岩を超え、或は岩を潛り、左往右來、轟々淙々偉觀を呈す。

斷魚溪 此溪谷の河底は粘板岩より成り、其節理の方向は北七十度東を示す、節理は水の浸蝕を受け其面に高崖を作り、流水は之を奔騰し

て小瀑をなす、小瀑七個の中其四個は節理面に懸る。

先づ曲に曲淵あり、其首位に懸る第七の小瀑は節理面に在り、其一部は既に破壊するも、幅約三米、高一米。之に連續する舟淵は磐岩を削り去り舟狀をなし、之に懸る第六の小瀑は全く節理面に在り、幅七米、高二米。第五瀑は幅九米、高一米。第四瀑は亦節理面に懸り、幅七米高一米。第三瀑亦節理面に懸り、幅約四米、高一米。第二瀑は幅四米、高一米。第一瀑は幅九米、高一米なるが、瀑頭に巨岩あり、分れて二瀑となる。

第一第七瀑間は八十米にて且小曲あり、故に曲淵の低位より仰げば、數瀑を見るに過ぎざるも、中位に上らば、上下の全瀑を一眸に集む。其上流は河床の中央にあるも、下流は右岸に偏して流路屈折轉向變化に富む。清流蕩々或は水石相闘ひ、或は岩壁を飛躍するの壯觀は、白龍群の昇天に髣髴たり、瀑聲喧阗咆哮雷雨の山谷

第五圖 斷魚溪



南方より北に向ひ寫す

に轟くが如し。次に磐岩の中には甌穴の存するもの相當あり。又右岸には尖峰、左岸には岩壁の露出ありて、錦上花を添ふの觀を呈するも、樹木の水上を飾るもの少なきを憾む。

要之は急斜面の流水が節理を浸して數多の小瀑を懸けたるものにて、帝釋峽斷魚溪に類似する勝景たり。

大ノベラ 前者に續く、ノベラは板岩の意なり。石英斑岩の節理及水平層を有する地磬より成る、水平層に直交の節理あり、こゝに數階段を生じ多くの小瀑懸る、其高さは何れも一米位なるも、幅は七米乃至十四米に達す、小瀑は白菊花瓣の並列せる美觀を裝ひ、淙々として流れ來り流れ去る。斷魚溪の動的陽的男的たるに對し、靜的陰的女的の容姿あり、小瀑の間には丸淵あり。又大磐岩の露出あり、其上下には大小の甌穴存し、直徑三米深一米半のものあるも、小白狀のもの甚だ多し。尙此左岸には一の尖峰峙立す、頂に梅松を戴ける大岩柱の削立せるも

のにて、更に偉觀を増す。又左岸の曲所に側面瀑あり、平素は水少なきも、大雨の候は飛下奮躍すと云ふ。

概括 此曲は大ならざるも、河床景瀾淵の著はるゝもの多く、殊に活動的斷魚溪の勝景は其代表的のものにて、頗る壯觀を呈し、大ノベラは清閑雅致幽邃景趣味ふべきもの多く有終の美をなす。

D、北 部

此地域は北西より南東流の長さ九百米の直線的峽谷にて、前記の如き曲を缺ぐ。されど亦固有獨自の勝景を所持するのみならず、古鑛山（方言古マブ）に關する遺跡は至る所に滿つ。

大返ヘシ 入峽口の險地にて、兩岸懸壁殆んど道なし。

堤谷の大淵 前者より百餘米を隔つ。左岸に大絶壁懸り、樅樹其他のものよく生茂して之を飾る。淵長四十五米、幅十四米、深四米。

女郎屋敷 前者より百米に在り。左岸僅少の

平坦地にて、古く鑛山稼行時代の遺跡。約五十年前に鑛山屋敷とし、最近福山電氣會社の事務所に充てたりと。

雙子嶽 前者より溯流する少許。柱狀岩壁の表はるるもの多し、就中右岸の雙子嶽は高く雲表に聳立し、大部樹木を纏ひ綠將に滴らんとす絶頂に近く峨々たる岩壁の大露出あり、轉落の容姿神膽を寒からしむるものあり。

ゴミ溜り淵 前者より百餘米を隔つ、左岸石英斑岩の露出あり、一部は削立して淵に臨み、一部は淵中に突入し、奇岩怪石藍碧に對應して奇觀を添ふ。淵長三十六米、幅十三米。

塔岩 前者より二十餘米を隔つ。尖塔狀の大岩にて、其中間に節理岩の並列せるを認め、其上下には綠樹の密生を見る。卓拔奇絶の岩石景にて峽中の一大偉觀たり。

金山屋敷 前者より少許、左岸の狹地にあり今は全く荒廢に歸す。

銅谷尻の瀨及淵 前者に接す。河底の磐岩は

黑色の粘板岩にて、東西の節理を有す、河水の浸蝕により、直立四米の間に六段を形成す。流水は左往右來、或は岩を呑み岩に激し、或は段面を奔騰し、轟々滔々大瀑の懸るに似たり、激流飛沫は深淵に注ぎて旋廻し紺碧を漂はす。淵長二十米、幅十米。左岸の巨岩に箕踞して此勝景を鑑賞し得。

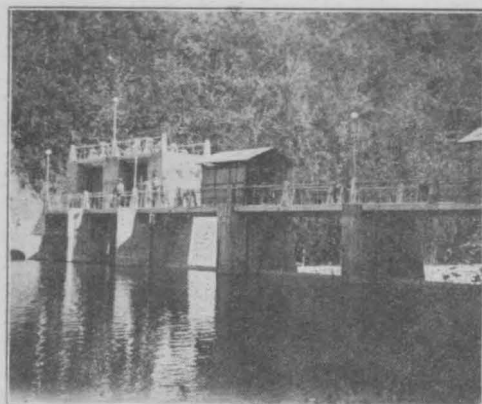
此附近の水成岩火山岩接觸地に鑛山(銅鑛)多し、右岸に來見の時安鑛山、左岸に銅正鑛山の舊坑存す。

金山の大淵 前者より三十餘米に在り。長さ六十三米、幅十一米、右岸に岩壁の大露出あり、峽中首位の長淵なり。

山の鑛山跡 前者の上流少許の左岸に在り、猫額大の地なるも、嘗て精鍊場ありしを以て聞ゆ。此邊より流水急なり。

大ゴーロ 前者を隔つ五十餘米に在り。ゴーロは方言石なり、大石の積床を指稱す、谷狹く流急に、奇岩怪石磊々たるを見る。

第六圖 堰 堤



内部より寫す

備後の名勝山野峽

達摩岩 前者より三十餘米の右岸に聳ゆ。形委よく達磨に類す、高さ十八米、幅は頭部四米、基部六米、一奇觀を呈す。

此邊流愈々急となり、奔湍頗る多く、轟音山谷に響き渡る。

堰堤 前者より二百餘米、山野村字銅正に在り。流水を堰ぎ發電に供するの設備なり。長さ

三十九米餘。幅は基部九・七米、上部三・六米。高さ一〇・九米。水は左岸半圓の貯水設備より水路に入る、水路は山を穿ち谷に添ひ延々東免に至り、長さ六・四九五七籽に達す。落差一八九・三米、電力は二千キロワット、今其半を廣島電氣、中國水電(井原にあり)に供給す。こは福山電氣株式會社(資金百餘萬圓)の有に屬し、昭和三年起工、五年完成す。

山間峽谷に於ける此設備は人工美の唯一の偉觀なり、堤上の堰塞湖は洋々として清水充溢し蒼々として其深さを窺ふ能はず、又屈曲に富み側谷多く廣大際崖なきの觀あり、兩岸の秀峯斷崖こゝに投影し、一段の勝趣を加ふ。若し夫れ扁舟を浮べ廻遊せば春花夏綠秋紅冬雪一として浩然の樂を養はざるものなからん。帝釋峽の堰堤及神龍湖の大に及ばずと雖も、亦之に類するものあり。此湖に次ぎ北受瀨、黃澄淵等あり。

概括 此峽谷は前の曲に比せば、幾分淺きを覺ゆるも、瀨淵よく發達し、銅谷尻の瀨淵の如

き秀景あり。又人工美の堰堤及大湖の如き偉觀を呈するものあり。尙兩岸には銅山の發掘に伴ひ之に關係せる遺跡多々存し昔を偲ばしむ。

Ⅴ、猿鳴峽の特色

地質 上部古生層の千枚岩質粘板岩を主とし石灰岩を含む。之に次ぎ中生層の砂岩粘板岩變岩あり。又火山岩なる石英斑岩の露出あり。即ち大部は火成岩にて、其接觸部には銅鑛を胚胎す、又水成岩の節理は此峽の一成因をなす。

形狀 此峽は三つの曲と一つの直線とをなす就中頓行峙の曲は最大にして聖の曲之に次ぐ。又此峽は一般に幼年期に屬し、峽谷及V字谷存するも、曲の部分は多く峽谷をなし兩岸の削立凄愴を覺ゆ。

景觀 河床の岩石景、流水景、谷側の秀峰景、之に露出の岩石景、及此等を裝飾する紅葉針葉の深林景は此峽景觀の眞髓にて、頓行峙及聖の曲に於て其絶勝を見る、即ち河床の岩石及流水景としては、谷田の磧、クマリ岩、荒波、萬鈎

淵、上北向淵、斷魚溪、大ノベラ、銅山尻の瀨及淵、堰堤の如き。谷川の秀峰及岩石景としては、聖嶽、頓行峙、鳥越嶽、鷹巢嶽、五峯、塔岩、達磨岩の如きは、其質に於て優秀を示し、探勝者の嘆稱措く能はざるものなり。深林景は至る所四季佳ならざるなきも、深紅燃ゆる秋景青翠滴る夏景を以て最となす。

植物 此峽は國有林大部を占め、従つて密林繁茂し全峽を覆ふ。松杉檜樅等普通のものも悉く生育す、楓樹は殊に多く満山錦を織る、榊眞柏、岩松、忍草等の青々岩壁を飾るあり、クマガエサウ群生し林間に異彩を放つあり。

動物 獸類に猪猿多く、猿は群居して簡出し此峽を賑はす。魚類には香魚・鱒・鯉・鯰等ありて全峽に普く、清流に生氣を與へ、釣網の享樂を恣にせしむ。其他河鹿の清音に耳を洗ひ、山椒魚の奇態に目を驚かしむ。

帝釋峽との比較 此峽の帝釋峽と近似せる點は、水成岩の谷深く兩岸の靈峰の峙立せること

其一なり。頓行時及聖の曲は帝釋峽堰堤下の絶勝と伯仲す、河床景として瀬淵奇岩及堰塞湖等の秀景夥多存し、尙河鹿山椒魚其他魚族の生棲するあるも、大なる正面瀑を缺くこと其二なり。深林美よく發達して、四時山容を彩飾し水態を幽玄ならしむること其三なり。清水滔々轟々山谷に響き亘ること其四なり。堰堤設置のため幾分水量を減少し、又探勝步道不備の地點存すること其五なり。次に彼に在つて此に缺ぐるものは、カルスト石灰洞窟及天然橋等なるが、此に在つて彼に缺ぐるものは、鑛泉及磧の存在なり、鑛泉は後述する如く、此峽に近く湧出し浴客を引く。要之彼此二景はよく近似し、彼は伯位此は仲位を占むるの勝景たり。

三、古谷川の峽谷

概説 小田川の支流原谷川に注ぐ古谷川は、神石郡來見村に發源し、圓形を畫いて山野村に流入す。こゝに流向を轉じ、其上半は北西西よ

備後の名勝山野峽

り南東東に略々直線的に、其下半は僅にカーブを畫きて約北より南に流れ原谷川に合す。其流程各々七百米。其流域は古生層上部の千枚岩質粘板岩より成り、河幅は小田川に比せば稍々小なるも流水は比較的多く、標高峽口百六十米と峽頭三百米との差高百四十米を流下し、幾多の淵瀨及瀑布等を作る。此峽は又猿鳴峽と同じく幼年期に屬し、峽谷及V字谷をなし、河床景及深林景に其特色を有する勝景地域たり。

各説 説明に便するため、此峽の上半を北部下半を南部とす。

一、南部 (前峽)

南部の下半は河床の傾斜一般に緩に殊に其下半に著し。峽門は平磐の河床、清水淙々潺々來去するを見るに過ぎずして、猿鳴峽門聖の曲の勝景に比し、聊か遜色の感あるも、溯流するに従ひ漸次數多の秀景加はり來る。

長淵 峽口を上る約百米に在り。長さ十三米幅四米、深二米、長きを以て名づく、満水清淨

覽

四九

よく魚類の浮游を認め、兩岸は粘板岩の黒色に配するに、樹木の緑を以てし、尙其枝葉は參差として淵上を覆ふ。

長瀬 前者を測れば河底の傾斜を増し、こゝに流轉巨岩横臥し、或は接し或は離れ、或は重なり千態萬狀なり、清流こゝに至れば或は流路を變じ、或は岩下を潛り流れ、或は岩を衝き之を超えて飛躍し、白沫四散の壯觀を呈し、滔々浩浩溪山に響く。

鷹の湯 前者の右岸粘板岩中に湧出する冷泉なり、六角の小池を穿つ、長さ一・六米、幅一・三米、深さ半米餘なり、無色透明、弱アルカリ泉に屬す、一種の臭氣あるは硫化水素なり、傷皮膚病等に功驗最も多しと云ふも、未だ澡浴の設備なし、嘗つて鷹足を傷け、屢々來り之に浸せしため鱗泉なるを認めて、かく名づけしと云ふ。

甲嶽 カガク 北方左岸に聳立すること二百米、甲狀の圓峰をなす、絶嶺は綠樹に充され、中央の岩

壁は廣く高く削立して雄姿を表はす。

清淵 きよ 左右兩岸の奇岩と其上下に横はる巨岩とに圍繞せられ、長さ九米、幅亦之に過ぐ、深さ大ならざるも清澄鏡の如し、紅葉は兩岸より淵上に映じ、淵爲に赤く、幽邃の神仙園たり。此淵の上下に瀬あり、淙潺たる水聲琴瑟の相和するに似たり。

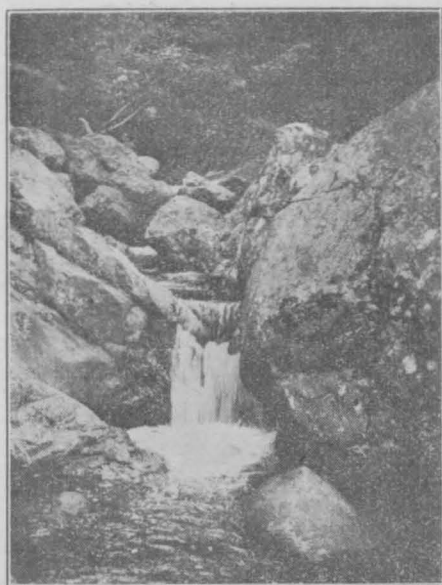
瓢形淵 形により名づく、兩岸の堅岩絶壁をなして相對立す、青樹奇木は亦淵上を覆ひ綠門を作り、晝尙暗く、奇瓢の中、水清く游魚數ふべし。此淵亦樹林水魚の美に富む。

前者より上流二百米間は又傾斜を増し、小瀧小淵及瀬湍深林等の秀景相續出して應接に暇なし。

小瀧 其數夥多なり、比較的大と認むべきものは數個にて、其高さ直立二、三、四米、斜長六、十五米等あり、此等は多く節理面に懸る、或は一條に其面の中央左端又は右端を流下するものあり。或は二條に兩端を奔下するもの、後

第七圖 小 瀧

南方より北十度東に向ひ寫す



合して一條となるものあり。或は數條に飛下し
後合して二條となるものあり。或は直立に或は
斜に懸る、白龍の白淵に降るが如きもの、白簾
白布を掲げたる如きもの、白糸の一齊に下るが
如きものあり。浩浩蕩々幽谷を壓す。

小瀧 瀧壺は概ね小瀧をなし白流の渦巻くあ

り。尙所々に小淵點在し、青藍中魚類の潑瀾た
るを見る。

瀧瀾 磐岩たる黒灰色粘板岩は兩岸に高く聳
え、或は河床に崛起し奇態をなし、流轉の巨岩
亦縦横を堰ぐ、臥牛、伏虎の如き、舟形平疊の
如き奇態怪状のものあり。流水は之を避けて屈
曲迂廻し、或は之に衝激して奔騰し、或は急瀾
をなし、流路頗る變化に富み、三段峽横堰に髣
髴たる所あり。

深林 兩岸の楓楠等の樹林は、鬱々繁茂して
清流を覆ひ天日を遮り、流れ爲に暗く、悄悄神
を凄じうす。

要之、此區域は規模小なるも、瀧淵巨岩瀧瀾
等の多方面の變化に富む河床景に配するに深林
美を以てし、盛裝修飾せる蓬萊の別天地なり。

南部の概括 峽口より三分の二迄は、漸次瀧
瀾の秀景を増し、鷹の湯の湧出は千鈞の重をな
す。終の三分の一は規模小なるも有ゆる河床景
を攢め一眸の下に鑑賞せしむ。(未完)